

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0190501692		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム厚別中央		
所在地	札幌市厚別区厚別中央1条1丁目1-73		
自己評価作成日	H30.8.16	評価結果市町村受理日	平成30年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南郷通沿いにあり、地下鉄大谷地駅より徒歩5～10分程度の距離に位置しています。近くの大型商業施設へは、入居者様でも徒歩圏内で、散歩や買い物、レクリエーション等に利用しており、商業施設内の店舗スタッフの方にもいつもご協力いただいています。ホーム前の駐車場スペースも広く、隣接する施設と協力するなどし、夏はバーベキューレク、花火レク等を開催し、入居者様とご家族の皆様にもご参加いただいています。季節ごとに職員によるレクリエーションを企画・開催し、季節感を感じ、楽しんで頂けるよう日々努力しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、白石区厚別の市街地に位置し、2階建て2ユニットのグループホームである。地下鉄東西線大谷地駅から徒歩圏内で、近隣に大きな商業施設やコンビニ、喫茶店などがあり、利便性のよい地区である。法人は医療法人を母体として、認知症高齢者グループホームを始め、訪問介護、通所介護、訪問看護、医療系有料老人ホームなどを旭川市を中心に札幌、室蘭・苫小牧の道内及び首都圏で運営しており、積極的に高齢者介護の支援を行っている。当事業所は、母体が医療法人な為、24時間の医療支援体制が構築されており、重度化や終末期にも積極的にチームで対応している。隣接して、同法人の医療系有料老人ホームがあり、避難訓練や行事など連携して実施している。開設から2年が過ぎたばかりだが、厚別区地域あそび祭りの実行委員として参画しており、地域の他の介護事業所の実践者研修者の受入れなど、既に地域の一人として存在している。ホーム内は、広くゆったりとしたリビングで、明るい日差しの中、日中は利用者の殆どが寛いで過ごしているアットホームな事業所で、これからも認知症高齢者の事業所として期待したい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成30年9月4日

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロア職員の目に入る場所に掲示しており、フロア会議開催時にも声に出し共有している。	事業所の理念とケア理念を事業所内に掲示し、利用者・家族、職員へ周知するよう努めている。また、職員間では、ユニット会議の際に唱和し、理念を振り返り、学んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加して頂いている。平成29年春より管理者が地域の会議などへ参加し、お祭りなどの地域行事参加も行っている。今年度子供会との交流は行えていない。	運営推進会議に町内会役員や地域の方が参加しており、地域行事のお祭りには、管理者が実行委員で参画するなどしている。また、他の事業所の認知症実践者研修の受入れも積極的に行うなど日常的に地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場などで情報提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域包括支援センターの方等に参画いただき2か月に1回開催している。会議の場でいただいたご意見はその後のサービス向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議は、家族や地域包括支援センター担当者、町内会役員や消防団など地域の方が参加して、定期的に開催し、情報交換や意見交換など行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、家族や地域の方が参加して、定期的に開催しているが、利用者家族の参加者を増やし、家族の思いや意向をさらに把握できるような工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が行っている。区役所の担当者や各事業所担当者との情報交換や連携に取り組んでいる。運営推進会議を通して情報の共有や相談等をし、協力関係を築いている。	地域包括支援センター担当者が運営推進会議に参加しており、定期的に情報交換や意見交換を行っている。市や区担当者には定期報告など行いながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上夜間は1階玄関を施錠している。日中は常に開錠しており入居者様や外部の方も自由に出入りできるようにしているが安全上の理由でドア開閉時インターホンが鳴るようにしている。身体拘束をしない指針やマニュアルを整備しており、株式、法人内での研修等で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては、指針やマニュアルを整備して、法人内の研修会や事業所内の勉強会で学びながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修や外部研修で虐待について学ぶ機会を定期的に設けている。また、研修内容をカンファレンスや報告書を通じ周知するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している入居者様がいるが、全職員の制度理解には至っていない。今後、研修等を通し、制度周知に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。疑問点や不明な点がある時は都度お話を伺い管理者へ報告し必要な対応をとっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内に意見箱を設置、運営推進会議の場や来訪された際などにご意見を伺うなどしている。ご家族様の来所時に近況報告を行うと共にその際に意見、要望を聞き取る様に努め反映に努めている。	毎月ホーム便りを発行して、運営状況を家族に報告している。また、来所できない家族には、管理者が毎月利用者の生活状況を手紙で報告している。玄関には意見箱を設置しているが、家族の訪問が多く、意見や要望を都度聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニットカンファレンスで意見交換をしている。必要に応じて臨時カンファレンスを開催し、カンファレンス以外でも意見交換を行っている。	全体会議を月1回行い、ユニット会議も月1回開催している。管理者による個人面談は年2回定期的を実施している。法人内に安全委員会・教育委員会・感染症対策委員会があり、定期的に職員が参加して意見や提案を行い運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や保有資格に応じて昇給や資格手当の支給が行われている。定期的に職員評価を行い目標を達成できる様取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに合った研修を受ける機会を設けスキルアップに配慮している。法人で行っている実務者研修や外部研修参加のためのシフト調整も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は地域のGH管理者会議に定期的に参加し、そこで得た必要な情報は全体会議等で周知している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談やご家族からの情報などからご本人の希望等を伺い、安心してホームで過ごして頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族の困っている事や不安な事、ご要望をお聞きし、信頼関係が築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談やご家族等からの情報をもとにアセスメントし、必要なニーズの把握に努めサービスに結びつけられる努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様それぞれに必要な介護を見極め、尊重し、ともに生活する者として個々に出来る事を支援し関係作り努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時等には日々のご様子等をお伝えし、ご家族のご意見をうかがいながら共に入居者様を支えていけるような関係作り努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙、面会等の取次は随時行っている。	地下鉄駅が近く便利な為、家族や友人、知人の来訪が多い。理容室や美容院、墓参りなどの馴染みの場所や店は家族が同伴して外出している。近隣のカラオケ喫茶や買い物は職員が同行して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状が様々な為、必要に応じ職員が介入することで良好な関係を築いて頂けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居された場合でも、随時ご相談に応じている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で個別の思いや意向を把握できるよう努め、ケアに活かせるよう努めている。必要に応じ個別のケアも検討している。	日常のケアの中で、会話の中から思いや意向を把握できるよう努めている。また、個々に対応して個別のケアも検討している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談やご家族様からの情報により、馴染みの暮らし方や生活環境、生活歴等を把握し他事業所のサービスがあった場合には情報を頂き、ケアに繋がられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察をすると共に介護記録に記載している。特に変化があった場合は注意し申し送りで情報共有をするなどし現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向をくみ取りケアに活かせるよう努めている。担当職員によるモニタリングやユニットカンファレンスで検討し介護計画に反映し現状に即したケアができるよう努めている。	利用者毎の担当者が本人や家族からの意見や要望を聞き取り、モニタリングを行い、ユニットカンファレンスで検討して、現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様それぞれの様子を介護記録に記入し申し送り等で職員間の情報共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な面会や外出・外泊にも臨機応変に対応している。身体状況の変化、退院後の状況変化にもケア内容を変更するなどし、随時対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ、ご家族にもご協力頂いている。近くの喫茶店のご協力で、歌声喫茶等のイベントにも参加させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族やご本人の意向を確認している。入居前からのかかりつけ医を継続される場合はご家族の協力をお願いし、医師との情報共有に努めている。	以前からのかかりつけ医は、家族が同行して受診している。協力医療機関は月2回の往診で、看護師が週1回の訪問による24時間の体制で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師による巡回時に各入居者様の様子を伝え、指示を受けている。特変時には連携クリニックへ連絡し指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成、提出している。また、必要時には随時情報を提供している。連携医療機関とは常に情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時にリビングウィルを取り交わしている。可能な限りご家族やご本人の要望にお応えできるよう努めている。	入居契約時に重度化や終末期の対応について説明しており、同意書も交わしている。重度化した場合には、本人、家族、医師にて再度打ち合わせを行い、意向に沿って対応するよう努めている。職員は看護師や本部にての研修で終末期の対応を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防団や消防署の指導で救命処置対応の研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定での避難訓練を実施している。消防団の協力を得てADE講習会を行いご家族様の参加が来ている。災害時の備蓄、備品等ははまだ設置できていないので早急に行える様努める。	避難訓練は、消防署の指導の下、消防団の協力により、AED講習会も実施するなど、家族も参加してマニュアルや備蓄を整備し、定期的に行っている。	災害対策の避難訓練は、定期的に行っているが、自然災害等の停電時の備品等の整備を至急に期待したい。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様を尊重した言葉掛けや対応をしている。また、法人の委員会に参加し、接遇に関する事についてフロアカンファレンスでも話し合っている。	人格の尊重とプライバシーについては、法人内設置の教育委員会で接遇研修を行っており、ユニット会議でも言葉掛けなど話し合い、確認して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さり気ない会話の中でご本人に思いや希望を引き出したり自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	食事の時間は決まっているが、体調等を考慮し時間をずらす等臨機応変に対応している。入浴の時間帯は、安全の為職員の多い時間帯に行っているが、できるだけ希望に添えるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みに合った服装をしていただけるよう支援している。化粧をされる方は安全に使用できる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の残存能力を生かし、調理や盛り付け、片付けのお手伝いをさせていただけるよう支援している。食材も旬のものを取り入れる、盛り付けを工夫する等し楽しめる様努めている。	食事は、食材買い出しから料理まで職員が行っており、利用者も調理や盛り付け、片付けなど手伝っている。行事食は、流しソーメンや野外バーベキュー、外食は和風レストランやショッピングセンターフードコートなど楽しみな食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェック表を利用し各入居者様の状態を把握している。それぞれに食べやすい形状、量を把握し必要な摂取量を保てるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの介助を行っており、声掛けや介助等それぞれに合わせた支援を行っている。必要に応じ訪問歯科診療や口腔ケア指導等も受けられるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録にある排泄確認表を利用し必要時には声掛けをし排泄の自立に向けた取り組みをしている。	介護記録の排泄チェック表を職員間で共有して、利用者ひとり一人の表情や仕草を見ながら、声掛けして誘導し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床後に牛乳等乳製品を提供、メニューの中にもヨーグルト、食物繊維等を取り入れている。散歩や体操等の運動を日常的に行い自然に排便ができるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	安全面を考慮し夜間帯の入浴は行っていない。基本の入浴日はあるが、体調や気分に応じて、できるだけ入居者様の希望に沿って入浴していただけるよう支援している。	入浴は、週2回で、午後からの予定で、利用者へ声掛けして、ゆずなどの入浴剤を活用するなど、個々の体調や状況に沿った入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの状態に応じ、随時休息をとって頂いている。また、適度に日中の活動に参加していただき、夜間の睡眠に影響のないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様のお薬情報をファイリングしいつでも閲覧できるようにしている。薬の変更や新たな処方があった時は介護記録や業務日誌等で確認、周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族からの情報で生活歴や嗜好等を引き出し、ホームでの生活やレクリエーションで活かせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回程度外出レクを行い、普段はなかなかいけないような場所へも行き楽しんでいただけるよう支援している。なじみの場所へはご家族様の協力も得て出かけられるよう支援している。	日常的にホーム周辺や馬場公園などに散歩している。外出行事は、月1回行っており、お花見や紅葉狩り、サンビアザ水族館、円山動物園、開拓の村、ラベンダー見学など毎月多彩な行事を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、小額の現金はご家族様のご理解のもと所持して頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の制限は設けていない。電話に関してはご家族様のご了承を頂き希望時には電話できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけや写真を飾るなど楽しんで頂ける空間作りを心がけている。照明等に工夫し快適に過ごして頂けるよう配慮している。	共用空間は、広くゆったりしており、採光や風通しもよく、季節を感じる飾りつけや行事の写真など掲示している。中央のリビングには、利用者の殆どが明るい日差しの中で、日中寛いで過ごしている。また、各フロアには非常口が2カ所あり、災害時に配慮した造りである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓席などそれぞれが好みの場所で過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみのものを持ち込めることをお伝えしており、安心して過ごせる環境作りに努めている。	居室には、整理タンスやベットが設置され配慮している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはそれぞれわかりやすいように表札を付けており、トイレや浴室もわかりやすいよう大きく表示している。建物内各所に手すりを設置し動線に障害物が無いよう安全に配慮している。		